

日本ボストン会会報

発行者 日本ボストン会事務局 郵便番号166 東京都杉並区和田1-13-19-606

日本ボストン会の発展を願って

副代表幹事 藤盛紀明

今、私の手元に勤務先の技術研究所の作成した災害関連報告書が三冊置かれている。グアムと奥尻島の地震被害調査報告書、長崎ハウステンボスのヨットハーバー入口に設置したフレキシブルマウンド(特殊ゴム製の見えない波除け堤)の台風12号来襲時の効果報告書である。今年は冷夏で自然災害の多い年でしたが、皆様および皆様のご親戚、お知り合いの方々は大丈夫でしたか。もし不幸にして何らかの被害にあわれた方には心からお見舞い申し上げます。

さて、本日(9月8日)日経テレコム(データ検索システム)で1993年のボストン関連記事を検索してみました。何件あったとお思いですか。303件です。朝日新聞128件、読売新聞73件、日経54件、毎日新聞48件です。

記事の幾つかを紹介すると、「ジョン・ウイリアムス今回限り」「ボストンセルティクス・レジスミス死去」「ニューヨークタイムズ、ボストングループ紙の買収を決定」「谷口選手が四位で復活ボストンマラソン」「モネと印象派・ボストン美術館展」「素顔の雅子さま」等です。中には「女性がボストンバッグをひったくられる」等も検索されているので、303件がすべて米国ボストンの記事ではありませんが、日本のボストン

熱は非常に高いと感じられる昨今です。

それだけに今後、当日本ボストン会への参加の増加が期待されます。会員の皆様にはお知り合いの方を是非お誘い下さい。僅か5千円で終身会員と言う会は余りないと思います。会は仲間作りのチャンスを提供します。皆様が積極的に提案・推進されて(会報等を通じて)どンドンワーキンググループが活性化される事を期待します。

既にニューイングランドコンサーバトリーご出身の松岡英子さんをお迎えしてのコンサート、ハーバード大の柳沢幸雄先生(当会の幹事)の地球環境問題のご講演が実施され、NE日本歴史研究会・歴史を飲む会もスタート致しました。

8月30日の読売新聞によれば、日露講和条約の舞台になったポーツマスのホテル「ウエントワース」の保存が問題になり、地元では具体的な基金調達活動が始められております。

本会の発足のきっかけはこのような日米の歴史的な遺物等に物心両面の支援をして行きたいと願ったことから始まっています。この種の事は関心の無い方に無理にお願い出来るものではありませんが、是非ご支援の手を挙げて戴ければと思います。ご賛同戴ける方は是非、藤盛までお申し出で下さる様をお願い申し上げます。

「ゆかりのホテル残したい」

地元で保存運動 「日本からの協力を要請」

日露戦争の講和会議の際、日露全権代表団が宿泊した米ニューハンプシャー州ポーツマス郊外のホテルの保存活動が、地元や日米協会の手で進められている。

このホテルは、同市郊外のニューキャッスル島にある「ウエントワース」である。

講和会議の本会議は海軍造船所で開かれたが、

両国の代表団はこのホテルに滞在し、小村・ウイッテ両全権の非公式折衝の舞台にもなった。

現在、ホテルは閉鎖され、一部は取り壊されたが、日露代表団が宿泊した主賓館と正面玄関の外郭だけが残されている。

ニューハンプシャー日米協会も保存活動を進める決議を採決し、日本からの協力を求めている。